

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 9 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24330035

研究課題名(和文)競争的権威主義体制の比較研究

研究課題名(英文)Comparison of competitive authoritarian regimes

研究代表者

松里 公孝(Matsuzato, Kimitaka)

東京大学・法学(政治学)研究科(研究院)・教授

研究者番号：20240640

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,600,000円

研究成果の概要(和文)：冷戦終了後、世界の諸地域に広がりを見せている競争的権威主義体制の研究は国際的にもブームとなっていたが、そこでは、アジアの事例が少ない、機構論が弱い、地域紛争との関連が明らかにされていないなどの弱点があった。これら弱点を克服するために、本研究は、旧共産圏、東南アジア、アラブ諸国、アフリカ、南米を専門とする政治学者を結集して比較研究を行った。毎年2回の研究会と現地調査を行い、海外で活発に研究発表した。自分の専門国以外で現地調査することも含めて、広域間比較の端緒も築いた。研究遂行期間がアラブの春、ウクライナ動乱と重なったため、現状に密着した研究も行った。

研究成果の概要(英文)：This project investigated competitive authoritarian regimes increasing in the post-Cold War world. For this purpose, specialists in the post-communist countries, Southeast Asia, Arab countries, Africa, and Latin America rallied. We held meetings twice every year for comparative analysis, actively conducted fieldwork, and publicized research results in foreign and domestic journals and conferences. We organized an experiment of inter-regional comparison, between Kazakhstan and Malaysia. The term of this project coincided with the Ukrainian Crisis and the Arab Spring. This project was involved in these actual issues.

研究分野：政治学

キーワード：競争的権威主義体制 旧社会主義国 東南アジア 南米 アラブ諸国 アフリカ

1. 研究開始当初の背景

冷戦の終了、民主化の第3の波の結果として、1990年前後から、一党制に代表されるような古典的な権威主義体制は維持するのが難しくなった。このため、形式的には野党が合法的に存在し、複数候補が立つ選挙も行われるのだが、与野党が公正に競争できないような安全装置を備えた体制、すなわち競争的権威主義体制の数が増えた。これは1990年代の末から政治学者の注目を集め始め、2010年には、世界35カ国の事例を網羅したレヴィツキーとウェイの画期的な業績も出版された。しかし、従来の競争的権威主義体制論は、以下のような問題があった。(1)レヴィツキー・ウェイの本の35事例のうちアジアから3カ国しか含まれていないことに示されるように研究の地理的な偏りがあること。(2)選挙に関心を集中して気候論が弱いこと、(3)多くの競争的権威主義体制が民族紛争や地域紛争を理由に自己正当化してきたのに、地域紛争に関心を払っていないこと、(4)競争的権威主義体制成立の背景として冷戦終了と民主化の「第三の波」が過度に強調され、実は成立理由の実証研究があまりなされていないこと。

2. 研究の目的

上記「研究の背景」に述べられた弱点を克服することが目的であった。(1)東南アジアやアラブ諸国など、これまでの競争的権威主義体制論がカバーしてこなかった事例を加える。(2)機構論を強める。特に、大統領制、準大統領制、議会制のそれぞれがどのように競争的権威主義と融合するのかを明らかにする。(3)地域紛争や国家破綻危機との関連を明らかにする。(4)競争的権威主義体制の成立動機を実証的に明らかにする。総じて、競争的権威主義体制の類型、動態、存在理由を多角的に考察する。

3. 研究の方法

(1)年2回の研究会、文献(最新の研究動向)調査、現地調査、国際的な研究協力と発表という4つの課題を並行して進める旧社会主義圏、東南アジア、ラテンアメリカ、中東、アフリカという5地域の専門家を結集しているという本研究の優位を發揮するため、年2回開催される研究会を真に内容的な討論の場とする。(2)最低年1回の国際的エクスポジューを通じ、競争的権威主義体制研究の既存の国際的ネットワークに本研究を組み込む。(3)地域内比較だけでなく、地域間比較を推進するために、研究対象の相互乗り入れを進める。

(4)研究成果の発表先は、基本的には欧米の学術雑誌となるが、競争的権威主義体制の国々が世界政治の焦点であり続けていることから、時事問題解説等を通じた日本社会への貢献も心がける。

4. 研究成果

研究グループの研究会を4回開催した。

2012年7月12日 東京大学駒場

今後3年間の方針について話し合った後、鈴木がマレーシアについて、武内がルワンダについて報告。

2013年7月6日 慶應義塾大学三田

小規模の公開研究報告会もあわせて行った。

池内『『アラブの春』以来のアラブ6カ国の体制転換と非転換』

出岡『『競争的権威主義』概念のラテンアメリカへの適用について』

松里「ウクライナの競争的権威主義体制への回帰と地域党」

2014年3月8日 東京大学駒場

2年目を終わるにあたり全員から各自の研究の中間総括

2015年2月17日 慶応大学三田

活動総括

現地調査(重点調査のみ)

2012年度の重点調査地域は、ラテン・アメリカ、中東、ロシアであった。ラテン・アメリカと中東については、村上、池内が独自の財源で行った。松里は、ロシアに代えてウクライナ、南オセチアなどで現地調査を行った。

2013年度の重点課題は、「アジアの競争的権威主義体制」「競争的権威主義体制へのゆれ戻し」であった。後者につき、松里と大串がクリミアとドネツクで調査を行ったが、折からのユーロマイダン革命に直面し、研究課題を軌道修正することになった。

2014年度の重点課題は、地域紛争と競争的権威主義体制出現の関連を調べることであった。この目的で、池内がチュニジアで、武内がルワンダ、ブルンジで調査を行った。

なお、マレーシア研究者である鈴木がマハティール体制とナザルバエフ体制との比較のためカザフスタンで現地調査を行ったことには、今後の地域研究の方向性として大きな意義があった。

国際的な研究発表、パネル組織

2012年度：コルカタで行われた第4回スラブ・ユーラシア研究東アジア・コンフェレンスでパネルRegional Conflicts in Eurasia: Political Violence as a Factor of Domestic Politics: Dagestan, South Ossetia, and Transnistria を組織し、松里が南オセチアの政治体制循環について報告した。

2013年度：第5回スラブ・ユーラシア研究東アジア・コンフェレンス(大阪)でロシア、ベラルーシ、ウクライナの競争的権威主義体制を比較するパネルを組織し、松里がウクライナについて報告し、鈴木がコメントした。ASEEES 年次大会(ボストン)でも、「カラー革命から10年」というパネルを組織し、松里が報告した。

2014年度：第6回スラブ・ユーラシア研究東アジア・コンフェレンス(ソウル)で、ロシア、マレーシア、ウクライナの競争的権威主義体制を比較するパネルを組織し、鈴木と大串が報告した。

2015年度：ウクライナ内戦の激化のため、事業の一部はこの年度に持ち越された。こちらから現地に行くことが困難になったため、8月に幕張で開催された ICCEES 世界大会に、ウクライナ紛争関係の研究者・実務家計4名を招聘し、本部企画2つ、パネル1つを組織した。

目標はどこまで達成されたか

開始時に設定された課題を再掲する。(1) 東南アジアやアラブ諸国など、これまでの競争的権威主義体制論がカバーしてこなかった事例を加える。(2) 機構論を強める。特に、大統領制、準大統領制、議会制のそれぞれがどのように競争的権威主義と融合するのかを明らかにする。(3) 地域紛争や国家破綻危機との関連を明らかにする。(4) 競争的権威主義体制の成立動機を実証的に明らかにする。

(1)については、3年余の活動を通じて、これまでの地域研究の枠組みに捉えられない研究ネットワークができたことが強調されるべきである。ただし自分の専門外の地域についての本格的な知見を得て広域間比較を行うところまではいかなかった。(2)これが研究1年目の重点課題であったこともあって、十分に討論・地域間比較できなかった。(3)これに関しては、そもそもウクライナ内戦やイスラム国勃興という現実の展開にも規定され、ロシア、ウクライナ、エジプトなどにつき相当数の事例研究がなされた。(4)これについては(3)に準ずる成果があった。発展独裁、地域紛争、社会的緊張、パトローナル政治などとの関係で競争的権威主義体制の成立を論ずる業績をメンバーは活発に発表した。

本研究は、すでになされた実証研究を基礎として理論化・総合化をめざす試みであった。しかし旧共産圏と中東で紛争が頻発するとい情勢に追われ、約半分のメンバーは現地調査に没頭することになった。その結果、業績数は多くなったが、理論化の課題の相当部分は今後に残された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計22件)

1. Kimitaka, Matsuzato, "Domestic Politics in Crimea in 2009-2015," *Demokratizatsiya: The Journal of Post-Soviet Democratization* 23: 2 (2016): 225-256.
2. Atsushi Ogushi, "Executive Control over the Parliament and Law-Making in Russia: The Case of the Budget Bills," 法学研究 [査読無] 89: 3 (2016): 61-77
3. 大串敦 「ウクライナの急進多党競合体制」*地域研究* [査読有] 16: 1 (2015): 46-61
4. 松里公孝 「ウクライナ動乱の1年に思う」『*学士会会報*』 [査読無] 911 (2015): 30-34
5. 松里公孝 「史上最大の非承認国家は生き残れるか—『ドネツク人民共和国』」『*kotoba*』 [査読無] 18 (2015): 174-179
6. 増原綾子、鈴木絢女 「二つのレフォルマシー—インドネシアとマレーシアにおける民主化運動と体制の転換・非転換」『*日本比較政治学会年報*』 [査読有] 16 (2014): 207-231
7. 松里公孝 「クリミアの内戦と政変 (2009-14)」『*現代思想*』 [査読無] 42: 7 (2014): 87-109
8. 池内恵 「中東地域の政治・安全保障における湾岸産油国の影響力—「アラブの春」後のGCC諸国の台頭とその持続性」『*アジア研ワールド・トレンド*』 [査読無] 224 (2014): 10-14
9. 池内恵 「中東の地政学的変容とグローバル・ジハード運動」『*外交*』 [査読無] 28 (2014): 22-29
10. 武内進一 「中央アフリカにおける国家の崩壊」『*アフリカレポート*』 [査読有] 52 (2014): 24-33
11. 池内恵 「エジプト政治は『司法の迷路』を抜けたか」『*UP*』 [査読無] 42: 2 (2013): 28

～38

12. 池内恵「グローバル・ジハードの変容」『年報政治学』[査読有] (2013 年度第 1 号) (2013) : 189-214 大串敦「支配型政党的統制境界?—統一俄罗斯党与地方领导人—」『俄罗斯研究』174 卷 2 期(2012): 101~121
13. 池内恵「「アラブの春」がもたらしたもの」『アステイオン』[査読無] 76 (2012): 63~81.
14. 池内恵「エジプトのコアビタシオン」『UP』[査読無] 41: 8 (2012): 13~22.
15. Satoshi Ikeuchi, “How Can We Explain the Arab Spring?” *Japan Spotlight* [査読無] 31: 6 (2012): 32~37
16. 池内恵「エジプト『コアビタシオン』の再編」『UP』査読無 41: 12 (2012): 36~43
17. 鈴木絢女「国民主義と自由主義: マレーシアにおける競争的権威主義体制の成立と持続」『日本比較政治学会年報 現代民主主義の再検討』[査読有]14 (2012): 197~220.
18. 鈴木絢女「政府主導の漸進的政治改革と高所得国家入りへの不確かな道程」『アジア動向年報 2012』[査読無](2012): 322~346.
19. 村上勇介「ペルー左派政権はなぜ新自由主義路線をとるのか?—『左から入って右に出る』政治力学の分析—」『ラテンアメリカ・レポート』[査読有]29: 2 (2012): 23~36.
20. Murakami, Yusuke, “Asia del Este y la política exterior del Japón: desafíos para el siglo XXI,” *Agenda internacional* [査読有] 29 (2012): 19~54.
21. Murakami, Yusuke, “Aquí las personas cambian, teniente, nunca las cosas’: una reflexión sobre la políticaperuana actual desde una perspectiva institucional,” *Revista Argumentos* [査読有] 6: 1 (2012): 6~12.
22. Kimitaka, Matsuzato & Stepan, Danielyan, “Faith or Tradition: The Armenian Apostolic Church and Community-Building in Armenia and Nagorny Karabakh,” *Religion, State & Society* [査読有] 41: 1 (2012): 18-34.

[学会発表] (計 19 件)

1. Кимитака Мацузато.
《Неполная
государственность,
пополняемая
трансграничными
меньшинствами, на
примере
Черноморского

- по бережья:
ленингорские грузины,
приднестровские
католики и крымские
татары
- Международная
конференция Проблема
устойчивости
политических систем
современного мира [招待講演]
(2016 年 1 月 28-30 日)、Санкт-Петербург
市海軍博物館 (Санкт-Петербург
市ロシア)
2. Ayame Suzuki, “‘Development State’ under Hegemonic Party: Case Study of Developmental Budget in Malaysia,” Consortium for Southeast Asian Studies in Asia (2015 年 12 月 12 日)、京都国際会館 (京都府京都市)
 3. Ayame Suzuki, “Variety of Authoritarian Regimes: Comparison of Kazakhstan under Nazarbaev and Malaysia under Mahathir,” 9th ICCEES World Congress (2015 年 8 月 3-8 日)、神田外国語大学 (千葉県幕張市)
 4. Atsushi Ogushi, “Bureaucratic Elites in Russia Revised,” 9th ICCEES World Congress (2015 年 8 月 3-8 日)、神田外国語大学 (千葉県幕張市)
 5. 武内進一「政治経済の視点から自然と人間の共生を考える」日本アフリカ学会第 52 回学術大会 公開講演会[招待講演] (2015 年 5 月 24 日) 犬山国際観光センター(愛知県犬山市)
 6. Shinichi Takeuchi, “Tracing Back Land Policies in Africa: Resource Management and Territorial Control,” 2015 World Bank Conference on Land and Poverty (2015 年 3 月 26 日) World Bank, Washington D. C. USA
 7. Satoshi Ikeuchi, “Securitization of the Regime in the Post-Arab Spring Countries,” Southern Political Science Association (2015 年 1 月 14-19 日)、Hyatt Regency New Orleans Hotel, New Orleans, USA.
 8. Kimitaka Matsuzato, “The Russian Orthodox Church’s Chinese Policy,” ASEES 46th Annual Convention (2014 年 11 月 20 日-23 日)、San Antonio, USA
 9. Suzuki, Ayame and Lee Poh Ping, “Malaysia’s Neutral Strategy: Still Valid in the Changing Strategic Situation in East Asia?” The International Conference “Malaysia, China, and the Asia-Pacific Region in the Twenty-First Century” (2014 年 10 月 29 日-30 日)、

University of Malaysia, Malaysia

10. Suzuki, Ayame, “Legal Institutional Analysis of Asian Authoritarianism: Explaining Regime Endurance in Malaysia,” The 6th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (2014年6月27日—28日)、Hankuk University of Foreign Studies, Seoul, Korea

11. Atsushi Ogushi, “Executive Control over Parliament and Law-Making in Russia: The Case of the Budget Bills,” The 6th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (2014年6月27日—28日)、Hankuk University of Foreign Studies, Seoul, Korea

12. Satoshi, Ikeuchi, “Authoritarian Collapse and Persistence: Regime-Military-Society Relations in the Arab Spring,” Western Political Science Association (2013年3月28日) Loews Hotel (California, USA)

13. 池内恵「アラブ諸政権の崩壊と持続一様式と要因」日本国際政治学会（招待講演）（2012年10月19日）名古屋国際会議場（愛知県名古屋市）

14. Kimitaka Matsuzato, “Politics of Vulnerability: South Ossetia in the Context of Conflict Regulation, 1990-2008,” Paper presented at the 4th East Asian Conference for Slavic Eurasian Studies in Kolkata (2012年9月4日) マウラナ・アブル・カラム・アザド記念アジア研究所（コルタカ、インド）

15. Atsushi, Ogushi, The Limitation and Failure of Dominant Party Building: Russian and Ukraine in Comparative Perspective 北海道大学スラブ研究センター国際シンポジウム “From Empire to Regional Power, Between State and non-State” (2012年7月6日), 北海道大学スラブ研究センター（北海道札幌市）

16. Ayame, Suzuki, “Strong Institution and Weak Incumbents: Asian Competitive Authoritarianism as an Exception,” 北海道大学スラブ研究センター国際シンポジウム “From Empire to Regional Power, Between State and non-State” (2012年7月6日) 北海道大学スラブ研究センター（北海道、札幌市）

17. 鈴木絢女「競争の権威主義体制における裁判所：マレーシアにおける司法審査の研究」日本比較政治学会（2012年6月24日）日本大学三崎町キャンパス（東京都千代田区）

18. 村上勇介「ポスト新自由主義期ラテンア

メリカにおける民主主義の課題—ペルー・ウマラ政権の事例—」日本ラテンアメリカ学会第33回定期大会（2012年6月2日）中部大学（愛知県春日井市）

19. Satoshi, Ikeuchi, “Arab Regimes in Transitions,” Asian Association of World Historians (2012年4月28日) Ewha Womans University (Soul, South Korea)

〔図書〕（計11件）

1. 鈴木絢女「マレーシアにおけるゲームのルールと軍：相互安全保障による漸進的民主化のもうひとつの道程」酒井啓子編『途上国における軍・政治権力・市民社会』（晃洋書房、2016）：280-301

2. 武内進一「『アフリカの潜在力』という視角」遠藤貢編『アフリカ潜勢力2 武力紛争を越える—せめぎあう制度と戦略のなかで』（京都大学出版会、2016）：323-342

3. 武内進一「冷戦後アフリカの紛争と紛争後—その概観」遠藤貢編『アフリカ潜在力2 武力紛争を越える—せめぎあう制度と戦略のなかで』（京都大学出版会、2016）：23-49

4. 大串敦「ロシアにおける混合体制の成立と変容」川中豪編『発展途上国における民主主義の危機』[査読無]（2016）（ジェトロ、印刷中）

5. 池内恵『イスラーム国の衝撃』（文芸春秋社、2014）、229+ix ページ

6. Shinichi Takeuchi, *Confronting Land and Property Problems for Peace* (Oxon: Routledge, 2014), xvii + 287 pages.

7. 大串敦、安達祐子、第4章「支配政党による統制とその限界」唐亮、松里公孝編著『ユーラシア地域大国の統治モデル』（ミネルヴァ書房、2013）：122~132

8. 村上勇介・仙石学編『ネオリベラリズムの実践現場—中東欧・ロシアとラテンアメリカ—』（京都大学学術出版会、2013）320 ページ

9. Murakami, Yusuke, ed., *América Latina en la era posneoliberal: democracia, conflictos y desigualdad* (Instituto de Estudios Peruanos 2013) 240 ページ

10. 松里公孝「政治学者のインタビュー」中嶋毅編『新史料で読むロシア史』（山川出版社、2013）：320~338

11. 唐亮、松里公孝 編著『ユーラシア地域大国の統治モデル』（ミネルヴァ書房、2013）328 ページ

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松里 公孝 (MATSUZATO, Kimitaka)
東京大学・大学院法学政治学研究科・教授
研究者番号：20240640

(2) 研究分担者

大串 敦 (OGUSHI, Atsushi)
慶應義塾大学・法学部・准教授
研究者番号：20431348

池内 恵 (IKEUCHI, Satoshi)
東京大学・先端科学技術センター・准教授
研究者番号：40390702

出岡 直也 (IZUOKA, Naoya)
慶応義塾大学・法学部・教授
研究者番号：50151486

鈴木 絢女 (SUZUKI, Ayame)
同志社大学・法学部・准教授
研究者番号：60610227

村上 勇介 (MURAKAMI, Yusuke)
京都大学・地域研究統合情報センター・准教授
研究者番号：70290921

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

武内 進一 (TAKEUCHI, Shinichi)